

# オホーツクの風

平成23年5月20日(金) 0005号

発行所  
北見赤十字病院の  
明日を考え支援する会  
事務局  
北見市緑ヶ丘1-10-16  
Tel 0157-61-0684

## 被災地、釜石の

### 避難所前にテントを張って

会計課主事 遠藤福之

当院の副院長を班長に、看護師、事務職など七名で救護班が編成され、救護チームは救護車に診療器材、メジャーの生活必需品などを満載して三月二十六日北見を出発し、フリーで秋田を経由し、高速を使い岩手県釜石市に入り、百六十人が避難している旧釜石第一中学校前に設置した仮設テントで救護活動を行ってきまし

## 東日本大震災 医療支援活動

北見赤十字病院

### 全国、赤十字施設の

#### 医療スタッフとともに

看護副部長 佐々木敦美

私たち、看護部の災害派遣スタッフの三名は三月十五日(から二十一日まで)、看護師不足を補うために全国から集まった十八人で、東京の赤十字本社に集合し、バスで被災地に入り、石巻赤十字

依頼、スタッフを避難所まで送り届けることが主でしたが「雑務全般」こそ大切な仕事だったとも思います。自己完結型の準備をしての活動ですが、自分達の食事時のマヨネーズが万能調味料になったこと、救護所に備えた爪切りが意外と喜ばれたことなど「そんなもの」こそが大切なものだとも知らされました。

風邪や腹痛、高血圧症や腰痛などの症状が多くまた「心のケア」がとても大切で、避難所にいる子どもたちが被災者、支援活動をする者双方にとって、とても大切な存在でした。

被災地で三月三十日まで救護活動をして、私たち、救護班が釜石を離れるとき「今度はいつ来てくれるのですか。赤十字が来てくれるだけで安心します」と言われ、赤十字の使命、任務の大切さをあらためてかみしめました。

でも、この後の支援こそが大切になると思っています。

石巻赤十字病院の医療社会事業部長石井正医師(48)のもと、全国の大学病院からの応援も含めた三千人が、効率的かつ一元的に活動できるよう「石巻圏合同救護チーム」を立ち上げて、朝夕の二回、活動内容の指示、情報交換をして、「今こそ赤十字の底力を」を合言葉に力を出し合いました。

対策本部での打ち合わせは立ったまま(写真)、余震が頻繁に起きるなかでのことですから大変でした。

三百箇所以上の避難所の被災者や石巻日赤を訪れる方の中に、三千人が散らばって活動する時に役立つのが、ベストの背中、医師、看護師、薬剤師、主事など「役名」の明示でした。

そして被災者を色分

### 御寄付

北見トヨペット株式会社(本社・北見市、代表 国安幹夫)様より、当会の事業資金として御寄付を頂戴しました。厚くお礼を申し上げます。大切に使用させていただきます。有難う御座いました。

けて(トリアージ)、死亡(黒)、重症(赤)、中等症(黄)、軽症(緑)とすぐわかるようにして、軽症の方は外のテントで診察を行いました。

私たちは自己完結型で食料、寝袋を準備して五日間活動しました。

行政の不足を補うような仕事もありましたが、赤十字が被災現場でつちかっていた長年の経験があつてこそこういったこともわかり、そんなスタッフの一員として活動できたことを誇りに思います。